

関連動向について

- 1．古墳壁画保存活用検討会におけるキトラ古墳及び古墳壁画に関する議論 1
- 2．檜前遺跡周辺における遺構等の発掘調査・研究成果 3
- 3．奈良県「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」 4

1. 古墳壁画保存活用検討会におけるキトラ古墳及び古墳壁画に関する議論

キトラ古墳の保存・活用については、古墳壁画保存活用検討会（文化庁設置）で議論が行われている。壁画については、恒久的な保存を図る観点から、当面の間、明日香村内の適切な施設で保存管理しながら公開することが決まっており、現在、四神、十二支、天文図など絵が確認されている部分の取り外しは全て終了し、余白部分の漆喰の取り外しを実施中である。石室及び墳丘本体の扱いについては、引き続き検討が行われている。

壁画の保存修理の現状と今後の方針

絵が確認されている部分（四神・天文図・十二支（子・丑・亥・寅・午・戌））の取り外しはすべて終了。

- ・四神・天文図：玄武・白虎は仮処置済 状態安定、
青龍は仮処置済 状態観察中、朱雀・天文図は仮処置中
- ・十二支：寅は仮処置済 状態安定、子・丑・亥・戌は仮処置済 状態観察中、
午は泥に転写された状態で経過観察中（将来的な処置方法等検討中）

絵が確認されていない余白部分（泥の下に残された可能性の高い十二支（辰・巳・申）含む）は、平成 23 年度までの終了を目指す。

- ・天井部分：平成 21 年度中に実施予定
- ・辰・巳・申含む東西南北壁：平成 22 年度から実施を予定。
*辰・巳・申の存在が確認され、取り外した場合には、環境を制御しつつ現状を維持し、将来の技術開発を待つ方針。

キトラ古墳壁画の現状

	四神・天文図	十二支	余白部分
北壁	【玄武】取り外し 仮処置済 状態安定	【子・丑・亥】 取り外し 仮処置済 状態観察中	平成 22 年度 以降 集中取り外し
東壁	【青龍】取り外し 仮処置済 状態観察中	【寅】取り外し 仮処置済 状態安定 【辰】取り外し未実施	
南壁	【朱雀】取り外し 仮処置中	【午】取り外し 泥に転写された状態で経過観察中（将来的な処置方法等検討中） 【巳】取り外し未実施	
西壁	【白虎】取り外し 仮処置済 状態安定	【戌】取り外し 仮処置済 状態観察中 【申】取り外し未実施	
天井	【天文図】取り外し 仮処置中		平成 21 年度 集中取り外し

取り外した壁画の本格的処置

漆喰等の強度

側壁、天井ともに、表面の質感等にあまり変化を生じることのない程度での強化

再構成する範囲及び単位

全体の重量やメンテナンスなどを考慮し、各壁面の全面を、原則として石材単位を目安に再構成

出典：第 6 回古墳壁画保存活用検討会資料

壁画の特別公開について

平成 18 年より、毎年 5 月に、状態を考慮しながら公開可能な壁画について、奈良文化財研究所飛鳥資料館において特別公開を実施している。

壁画特別公開の実績

年度	出陳品	展示日数	入館者数
平成 18 年度	四神「白虎」 キトラ古墳石室模型 キトラ古墳壁画修復関連道具	5月12日 ～ 28日 19日間	60,018
平成 19 年度	四神「玄武」およびその周辺の余白部分 ダイヤモンドワイヤーソー等の剥ぎ取り用機材等	5月11日 ～ 27日 17日間	52,203
平成 20 年度	十二支「子」「丑」「寅」 復元太刀ほか	5月9日 ～ 29日 18日間	37,382
平成 21 年度	四神「青龍」「白虎」 高松塚古墳壁画模写「青龍」「白虎」	5月8日 ～ 24日 19日間	30,366

参考:文化庁 HP_第9・13回特別史跡キトラ古墳の保存・活用等に関する調査研究委員会資料

同 第1・6回古墳壁画保存活用検討会資料

3 . 奈良県「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」

我が国の国家基盤が形成された地である明日香を、国家形成の経路が体感でき回想できる地として後世に残していくため、「歴史展示等のあり方」について、奈良県により、検討がなされている。3度の検討会が開催（H21 . 6月、8月、11月）されており、歴史展示の内容や手法について行われた議論をもとに、今後、「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」が策定される予定。特にキトラ古墳周辺地区については、拠点施設に位置付けられていることもあり、当該基本方針に留意しながら、内容の詳細化を図る予定としている。

明日香における歴史展示の推進 ～明日香における歴史展示等のあり方「基本方針」～

現状

明日香の価値は、“国家基盤が形成された地”であるという「歴史」そのものにあるが、誰もが歴史を体感できる状況ではない。

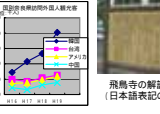
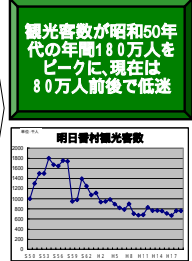
価値あるものが地下に埋もれており、来訪者にとって明日香の意義や歴史がわかりにくい



「歴史物の展示」はあっても、「歴史の展示」が不十分



東アジアから奈良を訪れる観光客は増加傾向にあるが、現地において東アジアとの“ゆかり”に関する情報が乏しい

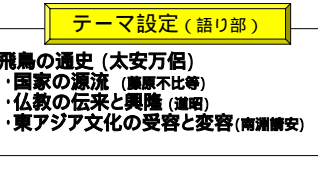
「明日香における歴史展示等のあり方基本方針」の作成と実施

奈良県が主体となり明日香の価値である「歴史」そのものを展示する ～国内外、特に東アジアからの来訪者にも分かりやすい歴史展示を進める～

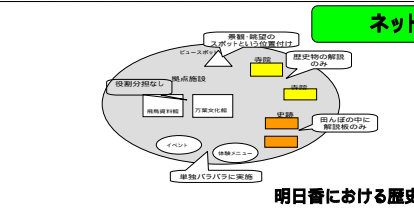
歴史展示の推進

歴史展示の内容

展示する歴史のテーマを設定し、テーマに即した人物(語り部)あるいは中心人物により、ストーリー性を持った展示内容とし、具体的には、万葉文化館等において、映像や音声等を用いわかりやすく解説する。



歴史展示の手法



展示施設の役割分担(仮称)飛鳥歴史文化館

県立万葉文化館を「飛鳥歴史文化館」と改称し、「歴史の総合展示施設」とするとともに、「明日香のゲートウェイ」と位置づけ所要の整備を行う



遺跡の復原整備

飛鳥京跡苑池等の飛鳥時代における重要遺跡を復原する




明日香歴史回廊

～歩いてわかる明日香の歴史～ 県立万葉文化館を中心に、明日香の歴史テーマを回廊形式で展示する

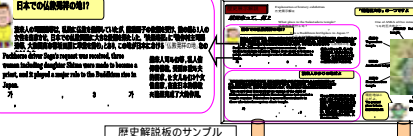
展示場所	拠点施設(県立万葉文化館の館内あるいは館外)			
エリア	エリア1	エリア2	エリア3	エリア4
時系列	6C末	7C中頃	7C後半	7C末
場面	推古朝の政治	大化の改新	壬申の乱	飛鳥京から藤原京

一帯の発掘等により「わかりやすく」をコンセプトに、回廊を中心に、歩くだけで歴史を体感できるような展示を行う。また、歴史愛好者には「知的好奇心を刺激」する展示を行う。

寺院・遺跡等における歴史展示

「歴史」の解説板の整備。イラストや写真等を使用。日本語・英語・中国語・ハンガルの4カ国表記を基本とする

日本の説明板の例



目指すもの

